

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 丸尾カルシウム株式会社 土山工場

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

< 基本理念 >

丸尾カルシウム株式会社は、人類にとって地球環境を保全することが最重要課題のひとつであることを認識し、すべての企業活動において環境保全に配慮すること基本理念とし、社会の持続的発展に貢献します。

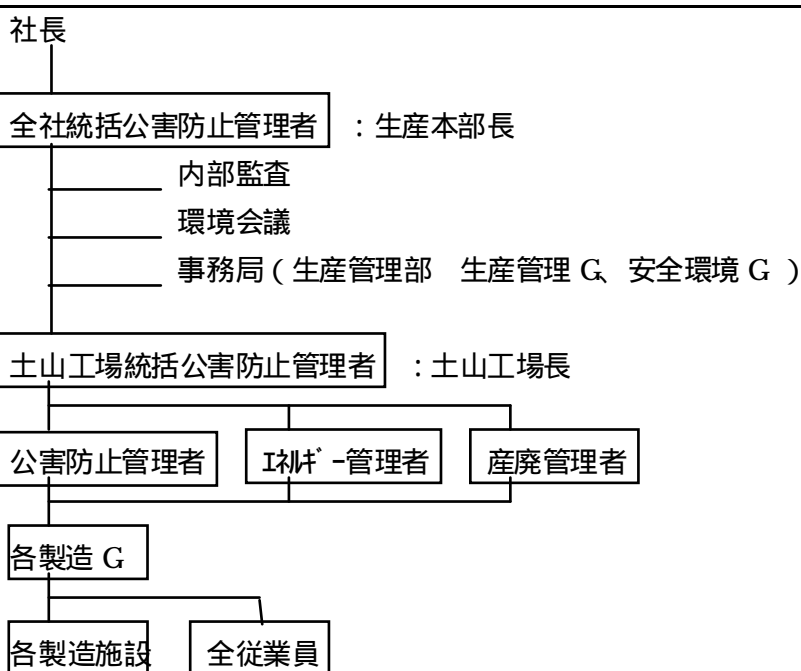
< 行動指針 >

1. 地球環境の保全活動を推進するため、環境管理体制の充実と従業員への環境意識の教育啓蒙に努めます。
2. 技術的に可能な範囲で、廃棄物の削減、省エネルギー、省資源及びリサイクルに努め、環境保全の改善に継続的に取り組みます。
3. 環境関連法規、協定を遵守し、さらに環境目標を設定し、実施状況の確認と評価を行い、環境負荷低減に努めます。
4. 新製品、新技術の開発にあたっては、研究・設備設計の段階から環境に配慮し、使用する原材料についても評価し、地球環境の保全に努めます。

(目標・計画等の公表の方法についても記載すること)

現在、HP 等での公表を予定していない

1-2 環境保全活動に関する組織体制



別紙 2

2 環境保全活動の実施状況等

項目	取組目標	前期の取組結果	今期の取組計画
自動車公害対策	自動車 NOx 排出量の削減	社用車等のアイドリングストップの徹底 出入り業者等へのアイドリングストップの徹底 フォークリフトの低公害車(電気)への転換	社用車等のアイドリングストップの徹底 出入り業者等へのアイドリングストップの徹底 社有車両の更新時に低公害車への転換推進
化学物質対策	化学物質漏洩の未然防止	漏洩の未然防止策として防液堤等の整備補修徹底 化学物質の適正保管、管理 (PRTR 報告) の徹底 P C B 使用機器の適正保管、管理の徹底	化学物質漏洩の未然防止策の維持管理徹底 化学物質、P C B 使用機器等の適正保管、管理の徹底 低負荷物質への代替推進
エネルギー対策(地球温暖化防止対策)	間接部門の購入電力量の削減 生産量当たりの原油換算エネルギー使用量並びに CO2 排出量の削減(いずれも前年比で 1% 以上削減)	購入電力量削減の一部となった 室内温度管理の適正化(冷房 28、暖房 20) 昼休み(12-13 時)の一斉消灯の徹底 前期は生産設備の効率的な省エネ運転を心がけた。 ・原油換算エネルギー使用量で前年比 0% 減 / t ・CO2 排出量で前年比 0% 減 / t 施設稼働の無負荷運転時間の短縮による省エネ運転の徹底 全社的な省エネルギー対策を推進強化する為に生産本部内に「省エネルギー企画推進グループ」を設置し、各施策を企画し推進した。	間接部門の電力購入量の削減 省エネ措置に対する啓蒙を推進する。 生産量当たりの原油換算エネルギー使用量並びに CO2 排出量の削減(いずれも前年比で 1% 以上削減) 生産計画に基づく各製造施設の効率的な運転 施設運転方法の見直しによる効率的な運転の徹底 施設更新時の省エネ機器の導入推進

<p>廃棄物対策</p>	<p>事業所から発生 する廃棄物排出量 を前年比で 1%以 上の削減</p>	<p>事業所から排出した廃棄 物量が前年比で 13%減。 生産施設の消耗分品の リサイクル、リユースによる廃棄 物の削減 製造工程の品質管理強 化による廃棄不良品の 発生削減 管理部門だけでなく裏 紙使用による新規購入 紙の削減並びに廃棄量 の削減</p>	<p>事業所で発生する廃棄物 排出量を前年比で 1%以上 の削減 事業所内 3R 推進によ る廃棄物の削減</p>
<p>環境マネジメントシ ステム (EMS)</p>	<p>EMS の維持、イ ノベーション向上</p>	<p>EMS の強化 全員参加の「小集団活 動」「場内巡回」を活用 した環境リスク箇所の早 期発見 環境保全に関する全従 業員への教育徹底 環境フォーラム等へ参加し 情報収集</p>	<p>EMS の維持、イ ノベーション向上、 更新 内部監査 環境保全に関する社員 研修等の実施 資格保有者などの力量 保有者の計画的な育 成、資質向上</p>
<p>地域社会への参 画</p>	<p>地域住民や行政 が行う環境保全活 動への積極的な参 加</p>	<p>地域住民や行政が行う環 境保全活動への積極的な参 加 工場見学会等の受入</p>	<p>地域住民や行政が行う環 境保全活動への積極的な参 加</p>